



株主のみなさまへ

第112期 中間報告書

平成25年 4 月 1 日～平成25年 9 月30日

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第112期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）上半期の、
当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変わりがせぬご支援
ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

取締役社長

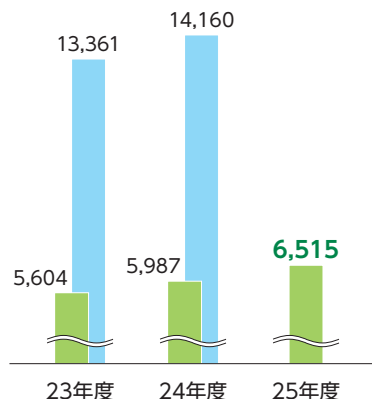
宮本 洋一

決算ハイライト

連結売上高

6,515億円

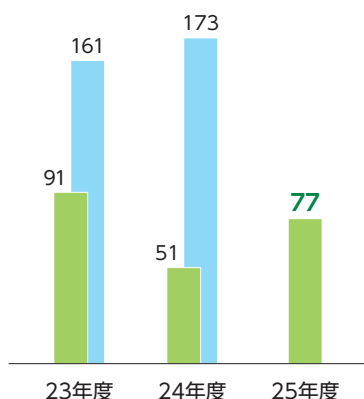
前年同期比+8.8%



連結経常利益

77億円

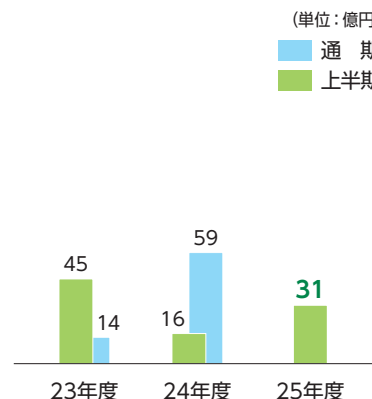
前年同期比+49.3%



連結当期純利益

31億円

前年同期比+92.4%



(単位: 億円)
■ 通 期
■ 上半期

当上半期の日本経済は、公共投資の増加傾向が続き、また、生産・輸出の持ち直しなどにより企業収益にも改善の兆しが見られ、個人消費も底堅く推移するなど、景気は緩やかながらも回復の傾向をたどりました。

建設業界においては、官公庁工事が堅調に推移し、民間設備投資も非製造業を中心として持ち直しが見られるなか、業界全体の受注高は、前年同期を上回る水準で推移しました。しかしながら、採算面では労務需給のひっ迫が深刻さを増し、また、原材料価格の上昇が顕在化するなど、業界を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、完成工事高の増加などから、前年同期に比べ8.8%増加し6,515億円となりました。

利益については、工事採算は低調に推移したものの、金融収支の改善や円安に伴う為替の影響などもあり、経常利益は前年同期に比べ49.3%増加し77億円となり、純利益は31億円となりました。

また、中間配当金は、前年同期と同額の1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ193億円減少し3,477億円となりました。

事業の概況 (連結及び単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売 上 高	6,515 億円	前年同期比	+ 8.8%
-------	----------	-------	--------

うち 建設事業	6,021 億円	+	10.7%
---------	----------	---	-------

開発事業等	493 億円	△	9.9%
-------	--------	---	------

売上総利益	389 億円	前年同期比	+ 5.9%
-------	--------	-------	--------

うち 建設事業	325 億円	+	8.3%
---------	--------	---	------

開発事業等	63 億円	△	4.9%
-------	-------	---	------

有利子負債残高	3,477 億円	25年3月末比	△193億円
---------	----------	---------	--------

通期の連結業績見通し

売 上 高	1兆4,100 億円	前 期 比	△ 0.4%
-------	------------	-------	--------

経常利益	155 億円	△	10.6%
------	--------	---	-------

当期純利益	60 億円	+	1.7%
-------	-------	---	------

有利子負債残高	3,600 億円以内	25年3月末比	△ 70億円
---------	------------	---------	--------

■建設事業

売上高は、前年同期に比べ10.7%増加し6,021億円となりました。

利益については、当社の売上高は増加したものの、工事採算の低下に伴い利益は減少しました。一方、子会社の利益は前年同期に比べ持ち直したことから、建設事業全体では8.3%増加し325億円となりました。

主要な連結子会社

(株)東京鐵骨橋梁 片山ストラテック(株) 第一設備工業(株)

(株)シミズ・ビルライフケア シミズ・ノースアメリカLLC 清水建設(中国)有限公司

■開発事業等

主に不動産事業を営む子会社で売上が減少したことなどから、売上高は前年同期に比べ9.9%減少し493億円、利益は4.9%減少の63億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株)

多摩医療PFI(株) シミズ・インターナショナル・ファイナンス(U.S.A.)社

シミズ・インベストメント(アジア)社

■通期の業績見通し

下半期の日本経済は、企業収益や個人消費が改善傾向にあるなか、2020年夏季五輪の東京招致による経済効果への期待感などもあり、景気の回復基調が強まるものと見込まれますが、依然として海外経済の下振れが懸念されるなど、今後の景気動向には不確実性を残しています。

建設業界においては、官公庁工事や民間の設備投資が引き続き増加傾向をたどるものと予測されますが、更なる労務需給のひっ迫や原材料価格の上昇が懸念されるなど、経営環境は、なおも予断を許さない状況が続くものと思われます。

このような経営環境のもと、平成25年度通期の連結業績は、売上高1兆4,100億円(前期比△0.4%)、経常利益155億円(前期比△10.6%)、当期純利益60億円(前期比+1.7%)を見込んでおります。

また、連結有利子負債の期末残高は3,600億円以内(前期末比△70億円)を見込んでおります。

単 体

当上半期の当社単体の業績

受注(契約)高	7,623 億円	前年同期比 + 41.2%
売 上 高	5,615 億円	+ 10.6%
経常利益	45 億円	+ 100.7%
当期純利益	25 億円	+ 324.1%
有利子負債残高	2,446 億円	25年3月末比 △203億円

通期の当社単体の業績見通し

受注(契約)高	1兆 850 億円	前 期 比 △ 6.5%
売 上 高	1兆 2,100 億円	△ 0.6%
経常利益	120 億円	△ 0.9%
当期純利益	60 億円	+ 5.6%
有利子負債残高	2,600 億円以内	25年3月末比 △49億円

■受注(契約)高

当社単体の受注(契約)高は、前年同期に比べ41.2%増加し7,623億円となりました。その内訳は、建設事業96%、附帯事業4%です。

建設事業受注高は、国内民間工事を中心として建築工事、土木工事ともに増加となり、前年同期に比べ39.3%増加し7,324億円となりました。

また、附帯事業の契約高は、前年同期に比べ156億円増加し298億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ10.6%増加し5,615億円となりました。その内訳は、建設事業97%、附帯事業3%です。

完成工事高は、建築工事、土木工事ともに増加となり、前年同期に比べ10.1%増加し5,472億円となりました。

また、附帯事業売上高は、前年同期に比べ34億円増加し142億円となりました。

■利 益

利益については、工事採算の低下に伴い完成工事総利益は減少しましたが、金融収支の改善や円安に伴う為替の影響などにより、経常利益は前年同期に比べ23億円増加し45億円、純利益は25億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ203億円減少し2,446億円となりました。

当社受注工事の主なもの

建築 工事	三井不動産レジデンシャル株式会社 日本土地建物株式会社 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠都市開発株式会社	港区芝浦一丁目計画
	合同会社スピードハウス	銀座五丁目計画新築工事
	武蔵浦和駅第3街区 市街地再開発組合	武蔵浦和駅第3街区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事
	株式会社ユーラス六ヶ所太陽光	ユーラス六ヶ所ソーラーパーク建設工事
土木 工事	MRTジャカルタ社	ジャカルタMRT CP104, CP105工区建設工事

当社完成工事の主なもの

建築 工事	森ビル株式会社	アークヒルズ サウスタワー新築工事
	アーバインインベストメンツ社	アドモアレジデンスコンドミニウム新築工事 (シンガポール)
	山梨県防災新館PFI株式会社	山梨県防災新館建設工事
土木 工事	シンガポール共和国政府	シンガポールMRTダウンタウン線 C905工区建設工事
	中部電力株式会社	上越火力発電所LNG設備 No.3 LNGタンク基礎工事

経営方針と重点施策

当社グループは、毎期「経営3ヶ年計画」をローリング方式で策定し、グループ全体の競争力、収益力の強化に努めています。平成25年度を初年度とする現行計画では、厳しい経営環境に対応していくために、以下の経営方針に基づき、諸施策を策定、実行しています。

『経営3ヶ年計画（平成25～27年度）』（要旨）

〈経営方針〉

「社会・顧客の変化を的確に捉え、本業・建設事業における収益力強化の徹底を図るとともに、事業領域拡大へも積極的に取り組み、シミズグループ全体の安定的な収益確保と持続的成長を実現する」

〈重点施策〉

1. 本業・建設事業における収益力の強化
 - ・ 営業・設計・現業の三位一体による受注時の利益確保
 - ・ 上流段階におけるフロントローディングの確実な実践による利益確保
 - ・ ものづくり・生産システム改革活動の一層の強化
 - ・ 「環境・エネルギー＋防災・減災」技術を軸とした ecoBCP ソリューションの着実な実践
2. 「Smart Vision 2010」の重点3分野での取り組み強化
 - ・ スtockマネジメント分野でのシミズグループ連携強化によるBSP事業の推進
 - ・ 再生可能エネルギー、スマートコミュニティ、排出権プロジェクトなど、サステナビリティ分野における収益事業化の推進
 - ・ グローバル分野での競争力強化に向けた継続的な人材育成とリスク管理の徹底
3. 事業基盤・人的基盤の強化
 - ・ 事業規模に合った組織体制・陣容の再構築
 - ・ 内勤部門の生産性・業務効率の一層の向上
 - ・ 人材の育成と従業員のモチベーション向上に向けた諸施策の実践



ecoBCPオフィスビル
「(仮称) MM21-46街区プロジェクト」



東京木工場が子どもたちを対象とした木工教室を開催（東京おもちゃショー2013）

計画に掲げた施策を着実に実行し、収益力の強化、利益の確保により持続的な成長を実現いたします。とりわけ、震災復興への貢献、「ecoBCP」提案の推進と実践については、建設業が今果たすべき社会的使命と考え、全社を挙げて取り組んでいます。

以上のような取り組みを通じ、コーポレート・メッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、東日本の復興、日本経済の回復・成長に寄与すべく、全力を尽くしてまいります。

会社概況／株式の状況

(平成25年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資本金 743億円
売上高 1兆2,173億円(平成25年3月期)
代表者 取締役社長 宮本 洋一
従業員数 10,800名

■主要な営業所等

本 社 東京都中央区京橋二丁目16番1号
東 京 支 店(東京都中央区) 名 古 屋 支 店(名古屋市)
横 浜 支 店(横浜市) 広 島 支 店(広島市)
千 葉 支 店(千葉市) 九 州 支 店(福岡市)
大 阪 支 店(大阪市) 土 木 東 京 支 店(東京都中央区)
神 戸 支 店(神戸市) 土 木 横 浜 支 店(横浜市)
四 国 支 店(高松市) 国 際 支 店(シンガポール)
北 海 道 支 店(札幌市) 投 資 開 発 本 部(東京都中央区)
東 北 支 店(仙台市) エンジニアリング事業本部(東京都中央区)
北 陸 支 店(金沢市) 技 術 研 究 所(東京都江東区)
関 東 支 店(さいたま市)

■海外営業網

大 連	ホーチミン	ダッカ	ヴロツワフ
上 海	バンコク	バンガロール	プラハ
広 州	ビエンチャン	グルガオン	ロンドン
香 港	ヤンゴン	タシケント	ニューヨーク
台 北	クアラルンプール	ドバイ	アトランタ
マニラ	シンガポール	イスタンブール	ケレタロ
ハノイ	ジャカルタ	ルサカ	

■株式の状況

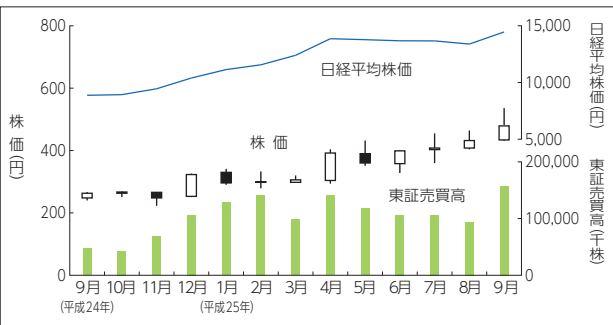
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 54,483名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持分比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.6
社会福祉法人清水基金	38,100	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,861	4.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,465	3.4
清水建設持株会	23,824	3.0
一般財団法人住総研	17,420	2.2
株式会社みずほ銀行	16,197	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	11,101	1.4
第一生命保険株式会社	10,564	1.3
富国生命保険相互会社	10,552	1.3

※持分比率は、自己株式(2,501千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

科 目	当上半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	8,809	9,236	△ 427
現金預金	960	1,586	△ 625
受取手形・完成工事未収入金等	3,890	4,064	△ 174
有価証券	750	580	170
未成工事支出金	709	581	127
たな卸不動産	753	574	179
PFI事業等たな卸資産	625	564	61
その他	1,133	1,301	△ 167
貸倒引当金	△ 13	△ 15	1
固定資産	5,672	5,327	344
有形固定資産	2,156	2,185	△ 28
無形固定資産	42	40	2
投資その他の資産	3,473	3,101	371
投資有価証券	3,296	2,951	344
その他	234	207	27
貸倒引当金	△ 57	△ 57	△ 0
資産合計	14,482	14,564	△ 82

(資産の部)
株式相場の上昇に伴い当社保有株式残高（投資有価証券）が増加しましたが、現金預金や受取手形・完成工事未収入金等が減少したことなどにより、資産合計は1兆4,482億円となり、前期末に比べ82億円減少しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	7,360	7,781	△ 420
支払手形・工事未払金等	3,675	3,889	△ 213
短期借入金	1,486	1,539	△ 53
1年内返済予定の プロジェクトファイナンス借入金	57	58	△ 0
コマーシャル・ペーパー	-	100	△ 100
未成工事受入金	1,070	945	125
完成工事補償引当金	33	31	1
工事損失引当金	338	365	△ 26
その他	698	851	△ 152
固定負債	3,281	3,202	79
社債	700	700	-
長期借入金	910	906	4
プロジェクトファイナンス借入金	323	366	△ 43
退職給付引当金	524	525	△ 1
関連事業損失引当金	40	43	△ 2
その他	782	660	121
負債合計	10,641	10,983	△ 341
(純資産の部)			
株主資本	2,476	2,472	4
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	1,316	1,312	4
自己株式	△ 14	△ 14	△ 0
その他の包括利益累計額	1,332	1,080	251
少数株主持分	32	27	4
純資産合計	3,840	3,580	259
負債純資産合計	14,482	14,564	△ 82
1株当たり純資産額	485.35円	452.79円	

(負債の部)
支払手形・工事未払金等や有利子負債残高の減少などにより、負債合計は1兆641億円となり、前期末に比べ341億円減少しました。

(純資産の部)
当社保有株式残高の増加に伴うその他有価証券評価差額金（その他の包括利益累計額）の増加などにより、純資産合計は3,840億円となり、前期末に比べ259億円増加しました。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前年同期比
売上高	6,515	5,987	8.8%
完成工事高	6,021	5,439	10.7%
開発事業等売上高	493	547	△ 9.9%
売上原価	6,126	5,619	
完成工事原価	5,696	5,138	
開発事業等売上原価	430	481	
売上総利益	389	367	5.9%
完成工事総利益	325	300	8.3%
開発事業等総利益	63	66	△ 4.9%
販売費及び一般管理費	331	324	
営業利益	57	42	35.8%
営業外収益	42	48	
営業外費用	23	38	
経常利益	77	51	49.3%
特別利益	1	28	
特別損失	0	40	
税金等調整前当期純利益	79	39	100.9%
法人税等	44	23	
少数株主損益調整前当期純利益	34	16	
少数株主利益	3	△ 0	
当期純利益	31	16	92.4%
1株当たり当期純利益	4.01円	2.08円	

売上高は、完成工事高が増加したことから、前年同期に比べ8.8%増加し6,515億円となりました。

売上総利益は、完成工事総利益が増加したことから、前年同期に比べ5.9%増加し389億円となりました。

経常利益は77億円、特別損益や法人税等を加減した当期純利益は31億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	増 減
現金及び現金同等物の期首残高	2,166	2,097	68
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 159	△ 96	△ 63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 107	△ 157	49
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 222	△ 299	77
その他の増減額	33	△ 6	40
現金及び現金同等物の増減額	△ 455	△ 560	104
現金及び現金同等物の上半期末残高	1,710	1,537	172

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益79億円を計上しましたが、支払手形・工事未払金等の仕入債務の減少などにより、159億円の資金減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当社における賃貸事業用資産の取得などにより、107億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、222億円の資金減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ455億円減少し1,710億円となりました。

単体財務諸表

貸借対照表 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	6,867	7,330	△ 462
現金預金	561	1,153	△ 591
受取手形	79	105	△ 26
完成工事未収入金	3,622	3,671	△ 49
有価証券	750	580	170
販売用不動産	130	72	58
未成工事支出金	679	555	124
その他	1,057	1,205	△ 148
貸倒引当金	△ 12	△ 12	0
固定資産	5,334	4,999	334
有形固定資産	1,760	1,764	△ 3
無形固定資産	30	29	0
投資その他の資産	3,543	3,205	337
投資有価証券	3,404	3,062	342
その他	197	201	△ 3
貸倒引当金	△ 58	△ 58	0
資産合計	12,202	12,330	△ 127

科 目	当上半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	6,314	6,697	△ 383
支払手形	97	99	△ 2
工事未払金	3,118	3,342	△ 224
短期借入金	980	998	△ 18
コマーシャル・ペーパー	-	100	△ 100
未成工事受入金	954	835	118
完成工事補償引当金	32	31	1
工事損失引当金	332	354	△ 21
その他	798	935	△ 136
固定負債	2,676	2,651	25
社債	700	700	-
長期借入金	765	851	△ 85
退職給付引当金	479	482	△ 2
関連事業損失引当金	51	51	-
その他	679	566	112
負債合計	8,990	9,348	△ 357
(純資産の部)			
株主資本	1,869	1,870	△ 1
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	-
利益剰余金	704	706	△ 1
自己株式	△ 10	△ 10	0
評価・換算差額等	1,342	1,110	231
純資産合計	3,211	2,981	229
負債純資産合計	12,202	12,330	△ 127
1株当たり純資産額	408.60円	379.35円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	
売上高	5,615	5,077	10.6%
完成工事高	5,472	4,969	10.1%
附带事業売上高	142	108	31.9%
売上原価	5,354	4,810	
完成工事原価	5,235	4,722	
附带事業売上原価	119	88	
売上総利益	260	266	△ 2.3%
完成工事総利益	237	247	△ 4.0%
附带事業総利益	23	19	19.7%
販売費及び一般管理費	258	259	
営業利益	2	6	△68.6%
営業外収益	61	50	
営業外費用	17	33	
経常利益	45	22	100.7%
特別利益	1	28	
特別損失	0	40	
税引前当期純利益	47	10	331.7%
法人税等	21	4	
当期純利益	25	6	324.1%
1株当たり当期純利益	3.27円	0.77円	

■中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき 金3円50銭 総額 2,751百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成25年12月3日

受注 (契約) 高・売上高・繰越高の内訳

(単位：億円)

区 分	前期繰越高	当上半期 受注 (契約) 高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	9,090	6,187	4,458	10,818
土 木	2,792	1,137	1,013	2,916
計	11,882	7,324	5,472	13,734
附带事業	101	298	142	257
合 計	11,983	7,623	5,615	13,992

建設事業受注高の内訳

(単位：億円)

区 分	当上半期 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	5,998	4,280	1,718
海 外	188	157	31
計	6,187	4,437	1,750
土 木			
国 内	1,026	806	219
海 外	111	13	97
計	1,137	820	316
合 計			
国 内	7,025	5,086	1,938
海 外	299	171	128
計	7,324	5,257	2,067

トピックス

エネルギーの新たな未来へ

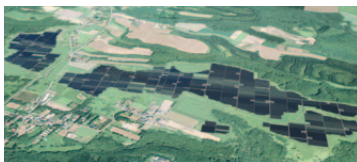
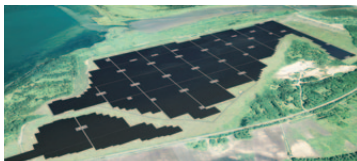
再生可能エネルギー関連施設の建設に注力

当社では、長期ビジョン「Smart Vision 2010」で掲げたサステナビリティ事業の強化に向け、陸上や洋上での風力発電、地熱発電、メガソーラープラントなどの再生可能エネルギー関連施設の受注拡大と建設に注力しています。

青森で国内最大規模のメガソーラープラントを建設中

ユーラスエナジーホールディングスが青森県上北郡六ヶ所村で建設計画を進めてきた、国内最大のメガソーラープラント「ユーラス六ヶ所ソーラーパーク」の建設工事を、同社設立SPC（特別目的会社）のユーラス六ヶ所太陽光から当社が受注し、平成25年8月に着工しました。

当社は、2つの地区での太陽光パネル設置工事（鷹架地区302,400枚、千歳平北地区211,200枚）、同パネルの基礎工事と架台設置工事、両地区の発電設備と変電所を結ぶ総長16kmの地中埋設送電線布設工事の施工を行います。同ソーラーパークは平成27年11月の発電開始を予定しており、発電規模は国内最大の11万5千kWで、一般家庭の約3万8千世帯相当分の電力を供給するとともに、年間約7万トンのCO₂削減効果が見込まれます。



完成予想パース。
建設地は、鷹架地区（写真上）
約140haと、千歳平北地区
（写真下）約113haの2か所

福島沖で浮体式洋上風力発電の実用化に向けた活動を推進

経済産業省から委託を受け、当社が参画する「福島復興・浮体式洋上ウィンドファーム実証研究事業」コンソーシアムの第1期実証研究施設が、福島県櫛葉町の沖合約20kmの海域に完成し、実証運転が始まりました。この研究コンソーシアムには当社の他に、東京大学や丸紅、三菱商事、三菱重工業、ジャパンマリンユナイテッド、三井造船、新日鐵住金、日立製作所、古河電気工業、みずほ情報総研といった有力企業が参画し、世界でもまだ例のない浮体式洋上風力発電の実用化に向けた活動を推進しています。



洋上風力発電設備「ふくしま未来」

伝統建築最前線

高い技術力と豊富な施工実績で受注拡大を目指す

当社では、伝統建築に関して社内に設計と施工それぞれの専門部署を有しており、その強みを活かし、全国各地で神社仏閣などの新築・改修工事などを手がけ、豊富な実績を築いています。

耐震化に関連する技術開発を積極的に推進

施工実績を積み重ねる一方で、当社はこれまで、伝統建築に関わる新たな技術の開発に積極的に取り組んできました。なかでも、耐震化に関連する設計手法や施工の技術は、他社に先駆けて開発、導入してきた当社の優位技術です。最近では、伝統木造建築の新たな耐震化技術として、木材の摩擦力を利用して地震力を吸収する「制震板壁」を開発、実用化しています。

高まる伝統建築の改修ニーズに確実に応える

近年、伝統建築の改修案件数が増えており、特に東日本大震災以降は耐震改修のニーズが高まっています。また、戦後の復興期に建てられた神社や寺院の多くが改修時期を迎えているほか、登録文化財制度の創設を機に文化財建築物の保存に向けた動きも活発化しています。こうした動きに確実に応えるべく、当社では今後も伝統技術の継承と最新技術の開発を推進し、更なる受注拡大を図っていきます。

伝統建築の最新プロジェクト

むさしいちのみや

武蔵一宮氷川神社祈禱殿・札所

東京・埼玉を中心に約280社ある氷川神社の総社における祈禱殿と札所の新築工事（当社の設計施工）。札所には制震板壁を採用して高い耐久性と耐震性を実現。

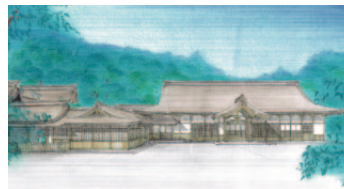


所在地：埼玉県さいたま市
発注者：氷川神社

おわりおおくにたまじんじゃなおいでん

尾張大國霊神社饗追殿

「国府宮（こうのみや）御修造事業」の一環として、1962年に建立された饗追殿の建替工事。純木造建築に、耐震板壁や劣化防止対策などを採用。

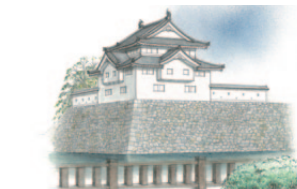


所在地：愛知県稲沢市
発注者：尾張大國霊神社

ひつじさるやぐら

駿府城公園坤櫓

駿府城公園内に、江戸時代の城郭建築「坤櫓」を約160年ぶりに復元する工事。忠実な復元に向け、古来の伝統技法と3次元データを用いた先端技術を活用。



所在地：静岡県静岡市
発注者：静岡市

トピックス

海外事業の今

シンガポールで好調な事業展開を継続

当社の海外事業は、アジア諸国を中心に好調な事業を展開しており、現地企業発注の超高層ビルや日系企業の生産施設、橋梁や導水トンネルといった社会インフラ整備などで多数の実績を重ねています。

多様なビッグプロジェクトを相次ぎ施工

現在、海外事業の受注内容を地域別で見ると、アジア諸国での受注が全体の約9割を占めています。そのなかで、特に好調に実績を積み上げているのがシンガポールです。

当社では、同国に40年前に営業所を開設。その当時からさまざまな分野における建設工事の受注活動や、ナショナルスタッフ（当社の海外事業所が現地で直接採用するスタッフ）の育成などに積極的に取り組んできました。その成果として、現在では現地企業と同様に認知されるようになっており、住宅や医療施設、商業ビルの建設、歴史的建造物の改修と大規模再開発など、非日系顧客の多様なビッグプロジェクトも数多く手がけています。



1 スカイ・ハビタット

著名建築家が手がける超高層住宅

当社が事業参画する住宅分譲事業の建築工事として、2棟構成・38階建ての超高層コンドミニアムを施工。設計はシンガポールの観光名所になっている「マリーナ・ベイ・サンズ」を手がけたモシェ・サフディ氏によるもの。



14階までの施工状況



2 キャピトル・デベロップメント

歴史的建造物の改修を含む大規模再開発

シンガポール中心部のシティホール地区の一面で、歴史的建造物3棟の大規模改修と既存ビル1棟の建替を一体的に行う再開発プロジェクト。総延床面積7万㎡の再開発施設には同国内最大の映画館や劇場、宿泊施設、商業施設などが設けられる予定。



右半分が改修部、左が新築部

3 ナショナルハートセンター

心臓病治療を提供する最先端医療施設

シンガポールと近隣諸国で需要の高まる心臓病治療に特化した、政府発注の最先端医療施設。診療部門、外科デイサービス部門、研究開発部門が配置される。建物は、ダイナミックなうねりを持つ外装カーテンウォールや各階に設けられたテラスが特徴。



仕上工事の施工状況

4 268オーチャード

ガラスの箱を積み重ねた商業ビル

シンガポール随一の繁華街・オーチャード地区に建設される12階建ての商業施設。建物最大の特徴は、極細ステンレス無垢材のケーブルと高透過ガラスで形成された“ガラスの箱”を3層重ねたような外観デザイン。



躯体工事の施工状況



5 アドモアレジデンス

独創的なシルエットの高級コンドミニアム

閑静な住宅街に建ち、曲線を交えた優美な外観が人目を引くコンドミニアム。市街が一望できる室内、バルコニー部の“屋外リビングルーム”など内装にも趣向を凝らしている。



高層で躯体工事、
低層で仕上工事の
同時施工状況



6 ウエストゲート

商業施設とオフィスの複合施設

副都心開発が進むシンガポール西部のジュロン・イースト地域で、バスターミナルや地下鉄駅と直結した商業棟とオフィス棟からなる大型複合施設を建設。巨大な曲線を描くガラス屋根や外壁が特徴的な建物。



14階までの施工状況



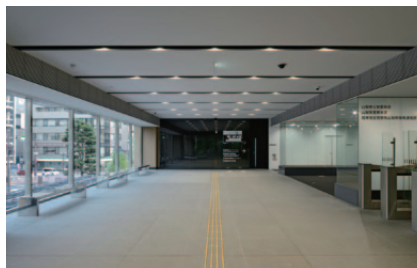
シミズのものづくり

山梨県防災新館

山梨県警察本部や山梨県の教育委員会、災害対策本部関連部署などが入居するとともに、新たな防災拠点として高度な機能を備えた「山梨県防災新館」。その施設整備等事業にあたってはPFI方式が導入され、当社がSPC（特別目的会社）の代表企業を務めています。

■工事概要

所在地：山梨県甲府市
発注者：山梨県防災新館PFI株式会社
設計：当社・UG都市建築・石本建築事務所設計共同企業体
工期：2010年10月～2013年8月



エントランスホール。
山梨県警のショールーム
「ふじ君広場」(右手奥)が
設けられる



オープンカフェ。
桃や巨峰など山梨の名産
品を使った飲食を提供



敷地内で見つかった石垣
の遺構は、地下1階の
駐車場横のスペースに
移築された

お客様から



山梨県総務部管財課 庁舎整備担当
課長補佐 安藤 明範 様

山梨県防災新館整備等事業は、本県としては2例目のPFI事業です。御社には当初の事業提案から、私たちの意向を十分に汲んでいたいただき、大変感謝しています。

防災新館は、カフェやイベントスペースを備えた1階の「やまなしプラザ」を軸として、甲府市の中心市街地を活性化する役割も期待されています。これまでの建設はもちろん、御社が代表を務めるSPCが、竣工後のこれから約15年にわたり施設の維持管理・運営業務を担うなかで、防災新館を核としたにぎわいの創出に引き続きご協力いただきたいと思います。

高評価を受けた提案内容を施工に反映

事業提案の作成にあたっては、社内の関係部署とSPCのパートナー企業が密に連携し、より良い提案内容となるように検討・計画を行いました。その甲斐あって、2グループが参加した入札では、当社グループの提案内容が高く評価され、受注に至りました。



工事長 田中 博文

施工にあたっては、提案内容を確実に反映することが求められるなか、事前の文化財調査により、敷地内で江戸時代の石垣の遺構が見つかり、その移築工事が発生するなど困難もありました。しかし、現場の若手が中心となって創意工夫を重ねることで、無事に竣工を迎えることができました。

緻密な検証で最も効率の良い施設計画を追求

本事業の設計提案では、要求水準書に示された11層の建物プランを8層に変更することで、貸室面積比（延床面積における貸室面積の割合）、コスト、環境負荷、業務効率など、多くの面でメリットのある施設計画としました。



設計担当 神作 和生

この提案に向けて、最も効率の良いプランを見出すため、建物を11層、10層、9層、8層にした場合の施設計画をそれぞれ作成し、緻密な検証を重ねました。当然、作業量は膨大なものになりましたが、最終的に提案評価で競合グループを大きく上回る点数を獲得できたことが、設計者として何よりの喜びです。

任されたことで創意工夫の楽しさを実感

最も印象に残っている業務は、屋上で実施した高さ約50mの防災行政無線鉄塔と非常用ヘリポートの施工計画の立案です。どちらの工事ともこれまで経験がありませんでしたが、上司から「まずは自分の思うとおりに計画してみなさい」と言ってもらえたので、



施工担当 門脇 洋平

チャレンジ精神と責任感を持って、業務に当たることができました。そして、上司への報告、連絡、相談を密にしながら、安全性や工期、コストなどさまざまな面で自分なりに創意工夫を凝らし、計画をまとめていきました。

今後は、この現場での経験を活かすとともに、現場の長として必要なマネジメント力も養っていきたいです。

株主様向けイベント開催のご報告

平成25年10月6日（日）、株主様を対象としたSOA（シミズ・オープン・アカデミー）体験会を開催しました。当社の技術研究所で、建設技術歴史展示室や音響実験棟、風洞実験棟などを体験していただきました。

参加された株主様からは、「説明が分かりやすく、さまざまな技術について興味深い体験ができた」との声も頂戴し、当社の最新技術や研究内容について理解を深めていただく良い機会となりました。

今後も株主様を対象としたイベントを実施してまいります。



建設技術歴史展示室での説明の様子

株主優待品の贈呈について

平成26年3月期の株主優待品は、前回に引き続き、当社東京木工場で製作した木製グッズといたします。平成26年3月31日現在のご所有株式数に応じて、優待品をご登録の住所にお送りいたします。送付時期は平成26年7月末頃を予定しております。

ご所有株式数	平成26年3月期の優待品
1,000株以上5,000株未満	靴べら
5,000株以上10,000株未満	マグネットものさし
10,000株以上	小物入れフック



優待品イメージ

株主メモ _____

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
電話 0120-232-711 (通話料無料)
ウェブサイト <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

公告掲載方法 電子公告

☐未受領の配当金につきましては、三菱UFJ
信託銀行本支店でお支払いいたします。

上場株式の配当金に関する『源泉徴収税率』変更のご案内

平成26年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、**20.315%※の源泉徴収税率が適用されます。**

※所得稅15%，復興特別所得稅0.315%，住民稅5%

	平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで	平成50年1月1日から
所 得 税 (含む復興特別所得税)	7.147%	15.315%	15%
住 民 税	3%	5%	5%
合 計	10.147%	20.315%	20%

□平成26年1月1日以降にお支払いを受ける上場株式の配当金には、原則として20%（所得税15%、住民税5%）の源泉徴収税率が適用されます。

□また、平成25年1月1日から平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されることになっております。

■源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。

■このご案内は、上場株式の配当金に係る税金について、一般的な情報をご提供するために作成されたものであり、内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄りの税務署等にお問合せください。

ホームページのご案内



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、さまざまな情報を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

表紙写真
アドモアレジデンス (シンガポール)
設計・監理／
UN Studio (基本設計)
Architects61 (実施設計・監理)

清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号
TEL 03-3561-1111 (大代表)
<http://www.shimz.co.jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

